

その破壊は何が狙いか

弱い市民の命を奪う戦争!!

ウクライナのカホフカ水力発電所に設置された巨大ダムの決壊について、「大規模な環境的、人道的大惨事を引き起こした野蛮な行動だ」と述べ、ウクライナとロシアは互いにその決壊の責任は相手側にあると非難している。しかし、その決壊の実態は「東京23区分の広さに匹敵する地域が水没、しかも赤十字国際委員会は地雷が流され、今後数十年爆発の危険にさらされる」と報じている。(毎日新聞・6月10日)

またこれに先立つこと、2022年2月24日に始まったロシア軍のウクライナの首都「キーウ」に対する侵攻は、市街の無差別破壊と、銃口による市民の虐殺と暴行という蛮行はすでに報じられている。しかも幼い子どもをロシアに強制連行をした行為などをもって「国際刑事裁判所」は、ロシアのプーチン大統領を戦争犯罪容疑者として逮捕状を出した。しかし、ロシアはICC非加盟国であり法廷の管轄権を否定している。当面はプーチン氏の身柄が拘束される見込みはないが、国家元首が戦犯容疑者となったことでロシアの国際的な孤立が強まることになった。

ウクライナに対するロシアの侵攻は、武器による殺し合いで戦いが終わることはなく「非戦闘員

である一般市民を究極の場に追い込む」ことに結び付くということをもって「侵略戦争」となることを知らなければならぬ。そのことは、私たち日本人も日米大戦で体験をしたところである。

国民を地獄の沙汰に追いこめ……

太平洋戦争の歴史をあらためて問う。戦争終結の3年前の1941年11月。アメリカ陸軍参謀総長ジョージ・マーシャルはフィリピン基地で秘密記者会見を行っている。その内容は「日本の都市を焼夷弾爆撃により市民を究極の場に追い込む」という構想であった。その狙いは第一の目標を航空産業。第二の目標を都市工業地域。そして第三の目標を、本州六大都市の住民56万余の命を奪うことによる降伏を迫るものであり、その実行を決めたのが爆撃軍団の指揮をとった「カーチス・ルメイ」であった。

1945年3月9日の夕方。325機のB-29が出撃準備をしていた。より多くの爆弾を積むため、機関銃などの戦闘火器はすべて取り外された。一機当たりの平均爆弾搭載量は通常の3倍にもなった。あわせて1600トンを超える焼夷弾が積み込まれ、過去最大の空爆作戦が行われようとしていた。標的は東京の市街地。誘導機を務めたトム・パワー参謀長は「まるで大草原の野

火のように燃え広がっている。地上砲火は散発的。戦闘機の反撃なし」と実況報告した。3時間で死者行方不明含め10万人以上、被災者100万人以上、約6平方マイル内で25万戸の家屋が焼失した。一方、ルメイの部隊は325機中14機の損失であった。

戦後のルメイは、日本爆撃に道徳的な考慮は影響したかと質問され、「当時日本人を殺すことについて大して悩みはしなかった。私が頭を悩ませていたのは戦争を終わらせることだった。もし戦争に敗れていたら私は戦争犯罪人として裁かれていただろう。幸運なことに我々は勝者になった」と。そして世界唯一の「核被爆国」となった。

(出典 フリー百科事典「ウィキペディア」)
日本の政府は、2027年に防衛費を国内総生産の2%引き上げ、これに伴い今後5年間で43兆円の国費が投じられようとしている。これによって防衛費は米・中に次ぐ世界第3位となる。沖縄をエリヤとする西日本新聞に次のような事が掲載されている。「戦場に加わる日が来るかも、海上保安庁の現場に動揺も。有事に防衛相指揮下、戦闘に巻き込まれるリスクは」。

(西日本新聞・5月15日)

この記事は沖縄住民の代弁と結びつくと思う。「自国を守るうとしない国を他国は守ってくれない」という。しかし、一旦「戦火を発したらその火は消せないものとなり、「多くの市民」の犠牲を伴うことになることを、私たち日本人は身をもって体験してきたはずである。(文責・降矢)

【一寸ひとこと】

気づいたこと・感じたこと

今、あらためて記録と言葉を、

そして語り継ぐ努力を!!

12年前の3月、郡山においても道路に座り込むほどの大揺れが発生。以来3日後の3月14日を第1回の現地報告としてメールによる発信を全国の仲間へ届けた。そして35日にわたる送信の編集後記に次のような文章を綴っている。

「人類が『言葉と火』を使う事によって『人間』となり、あらゆる生物を支配することになった。しかし、その人間の傲慢は言葉を巧みに使い『火』を支配することによって、人間同士の殺戮である戦争を繰り広げてきた。しかし、それでも飽き足らず『消せない火』である「核」を燃やした。その火は広島、長崎で炸裂し、我がふるさと福島で殺戮した。だからこそ、今を生きる者の責任としてこのことをしっかりと認識しなければならぬ。『燃やしてはならない、消せない火を私たちは燃やしてしまつた』と。」 (降矢記)

豊かな自然の恵みを破壊した原発

会津盆地の水田もようやく田植えが終わり、私の大好きな季節です。幼苗は水面に顔をのぞかせ、活着のときを待っています。夕暮れには蛙の大合唱です。

最近地震が多く何となく気味悪さを感じています。国会では原発GX法案が参議院委員会で大詰めを向かえ、福島県では、放射能汚染水の海洋放出の世論固めに韓国の視察団を受け入

れ、29日には、IAEA(国際原子力機構)調査団が来日し、最終検証に入るといいます。

海に流された、放射能は、生体系の影響など海洋汚染はもとより、海洋から内陸へのエアロゾルの影響や大気汚染はどうなるのだろうか。県民の7割の方は海洋放出反対です。経産省や、東電に、住民説明会の開催を求めています。日程が取れないと頑なに拒んでいます。岸田首相は、「放出の時期は私が決めます」と豪語しています。

原発事故後に、「原発さえなかったら」と命を絶たれた方の記憶は忘れられません。いま、汚染水の海洋投棄を強行するならば、いつかまた、「汚染水を海に流さなかつたら…」と繰り返すことにもなりかねません。誰が、責任をもって投棄するのかを明確に記録して責任の所在を明らかにして置くべきです。過酷事故の責任の所在を未だに明らかにしない事は、許し難いことです。いつかまた繰り返す悲しさだけはしたくない。いまなら間に合う!!海に流すな!!

脱原発情報 257号はそんな事をお伝えしたいと思ひ編集いたしました。

今年、里山に暮らす同級生との再会から、忘れかけていた山菜取りに何度か連れて行ってもらいました。コシ、ワラビ、たらの芽、ミス、エラ、イタドリ、紅葉笠、うるい…まさに山の恵、幸いです。

原発事故前は、折々に摘んできては、乾燥、塩漬、佃煮等に加工をして1年分を保存する里山のくらし。山野草は薬草の効果も多分に含ん

でいるのです。怪我をしたとき、飲みすぎたとき、血圧が高い時、胃が弱い人は等と、様々な山野草が人とつながっているのだということであらためて知る事になりました。人類が薬を手にしたのは、まさに山野草や鉱物からなのです。山菜の灰汁抜きの方は長い年月の中で人間が学んだ知恵と技術の結晶でしょう。原発事故はそれらの事を全て奪い次世代に継承できるのかも心配です。更に、私たちの暮らしから海さえも奪おうとしているのです。

季節の変わり目、皆様お体ご自愛くださいませ。 敬具

脱原発情報発送担当者 千葉 親子



読者の皆さんからの報告やご意見を掲載しています。今回は素敵な風景の写真をつけての報告がありました。カラーでないのが残念ですが掲載をいたしました。(編集者)

海岸線の長さ、世界ランキング六位

日本の在り方を考えられないか

BS・3チャンネルの朝のドラを見る。そして「二ころ旅」と画面は続くのだが、お休みの時は「全国100名山」にチャンネルを合わせる。そして日本は「山岳国」である事を痛感した。

そこで日本列島の地理をあらためて勉強することとした。

まず、海岸線と島の数であるが、海岸線の長さが100メートル以上の島が6852もあり、その海岸線の長さは「日本最北端の地」という記念碑がある宗谷岬から、最南端の沖ノ島までの全長距離は約2,845kmであり、国土面積の広さは世界で62位であるが、海岸線の長さは6位であることをもつても、日本は海洋国であることを知る。

そして、かつて満州に駐留していた日本の陸軍である関東軍が、満州事変を経て1932年に日本の傀儡国家「満州国」を建国した。当時の日本国内は世界恐慌のあおりを受け深刻な経済不況に陥り、特に農村経済を支えていた養蚕業は大打撃を受けた。農家は軒並み借金を背負う貧困の状況にあった。そこで政策として取り入れられたものに「満蒙開拓団」があった。1936年に発令された「満州農業移民100万戸移住計画」がそれである。結果として約27万人の開拓団のうち、約8万人が現地で亡くなるという悲劇を生んだことは忘れてはならない。

もしも当時の政府が、広い海岸線からの恵みをとる政策を建てていたら、北方、尖閣問題をは

じめとする日本の歴史、そして海洋技術などの文化、生活様式も随分と変わっていただろうと思う。

OB・Gニュース189号(3月号)で「武器を買うより食料の自給」を取り上げその農業政策について触れた。今般、それに加えて「海洋問題」を考えてみたいと思う。

- ① 日本の国土面積は世界61位。
 - ② 人口は12.2億人で世界10位・その人口密度は世界28位。
 - ③ 農地面積はランキング93位。
 - ④ 国土面積に占める農地の割合は166位。
 - ⑤ 休耕地の割合は125位
- 耕作地放置の理由は次の通りである。
- イ 高齢化
 - ロ 労働力不足
 - ハ 土地持ち非農家の増大
- ⑥ 日本国土に占める山岳の面積を森林面積とした場合、249千km²世界ランキング順位は23位である。
 - ⑦ 領海水域面積世界6位であり、地球一周の85%という長さの海岸線を持つ。

田畑は少ないが、魚貝類、塩などの自然の恵みがあり、しかも豊かな森林の活用を図ることができらるだろう。そして休耕地の回復などへの視点を変えた知恵と政策をもつてすれば、日本の国民の生活と国土は守られるとは考えられないか。

「市民レベルの考え方」ではあるかもしれないが、今後の日本の在り方を考えてみてはどうだろう。

報告・提言のひろば



■沖縄南方からの台風が大雨を生んだ。その「線状降水帯」は愛知、関東を含む各地を襲った。床下の泥を取り出すボランティアの姿。為すすべもなく立ち尽くす高齢者。今年の夏の異常な猛暑と、気候変動は再び災害を生み出しはしないか。国政は勿論、地方自治体のきめ細かい対策を望みたい。そのためにはこれからの自治体選挙に関心を持ち、運動に参加をしたいと思います。

■5月11日付けで「国が、有事の際に食糧増産を農家などに命令する制度を整備する検討を始めた」との報道がありました。戦前の財閥と軍閥が一体となり戦争に突き進み、国民に甚大な犠牲と損害を与え敗戦に至ったことを再現しようとしていると思います。このような暴挙は、国民主権を明確に規定する憲法を無視する企みであり許すことはできません。本来、憲法を順守しなければならぬ政治家や官僚が、憲法に違反し、「お上(国)が、下々(国民)に命令する」とは、何たる言い草か。いつの間にか大日本帝国憲法の時代に遡りをするのか？ 日本の政治は腐つてしまっているのか？と思ひ腹を立てています。元々、農業政策の失敗と大企業(財閥)優先の経済体制を作ったことが、食料自給率の極端な低下を招いていることは明らかです。減反に次ぐ減反で農地は荒廃し、耕作放棄地が増大し、農家も減少し農業人口も減少している現状で、いく

ら国が命令しても農作物は急には作れないことは考えなくても解かります。そもそも、日本は国土の70%が山岳地帯で耕作地は少ない現実があります。どこで、どうやって食料を増産し、国民の食卓にどう食料を確保するのか？出来る筈はありません。この法整備の検討の延長に「有事の際のシールズ確保」のため、軍備費を増やす狙いがあるのではないかと思えます。この、戦前回帰のともない企みを断固阻止しましょう！

(M-H)

■私が都心に出るのには渋谷を経由しますが、外国人観光客の多さに驚きます。観光客もそうですが、若い人にマスクなしの人も増えてきました。確実にまた感染の波が来るのだろうという気がします。テレビCMで「もつと他に言うことあるだろうー！」というセリフがありました。TVのニュースを視るたびにこの言葉が頭に浮かびます。「もつと他に伝えるべきことがあるだろうー！」と。事件、事故、気象、スポーツ、発表報道ばかりのTVニュースを視るにつけメディアは死んでしまったのかとすら思います。別に野球はきらいではありませんが、連日これでもかとWBCや大谷翔平くんの話題を流し続けるTVニュースとはなんでしょう。報道の自由度は世界で68位、G7でも最下位という調査もあるようですが、老朽原発の60年超運転を含むGX法、入管法、安保三文書改訂、などなど、メディアはどう伝えてきたでしょう。国会で決まってるから免罪符的に記事を書けることが多いように思います。思えばメディア自身の生死に関わるような放送法の

問題です。他人事のようにスルーに近い状態でした。現在の大手メディアは中立性や公平性という言葉に縛られているように見えます。中立という概念には報道機関としての自律的な「軸」がないと思うのです。中立性、公正性の言葉のもと、結局は政治に忖度しているようにしか見えません。求められているのは政治的な中立性ではなく、政治からの独立性です。今の政治状況に対するメディアの責任は大きいと言わざるを得ません。コロナ禍で気分的に救いになったのは、抽選に当たった区民農園での野菜作りでした。先週あたりは少しですがジャガイモや玉ねぎが収穫できました。畑が使えるのは来年の年明けまでですが、もう少し楽しめそうです。

■4月の統一自治体選挙で私の選挙区から候補者擁立ができませんでした、隣の市では、ごみ焼却場の問題の市民運動の中から公認の女性が立候補し当選しました。私の地区からは社会新報の号外を配布するなどの支援をしました。運動がない中で、ただ候補者をつくりただけでは、「擁立を実現させることはできません」。これが本音です。地区労も連合が出来てから加盟人数も減っていく中で地域の運動がなくなってしまうました。市民と一緒に市民運動をやっていくなかで候補者を見つけ、擁立するしかないと思えます。私の地区の党员も、年齢構成からすれば4年後の統一自治体選挙で活動できる党员は一握りになつてしまつてでしょう。党员、党協力者を増やす努力は必要ですが困難です。少し愚痴になつてしまいました。しかし「やるべきやない」です。

■毎日の気候の変動にはついていけないのが本心です。気が付けば5月も後半、沖縄の梅雨入りの報が入りました。「広島サミット」も終わり急に岸田支持率が右肩上がり「解散風」もなにやら立ちはじめ、自民、公明連立もおかしくなり始め、どうなりますやら。いよいよ「野党」の立ち位置が問われる事となりそうな気がします。余談ですが町内会の取り組みの一つに「独居高齢者支援」のボランティア活動があります。要すれば庭の除草作業が先日行われました。小生も参加しましたが、この方にも身内は居るはずなのでしょうがと考え淋しい人生を送っているのを目の当たりにして切なかつたです。「政治の貧困」で片づけるにしては如何なものかと思えました。何か空しさも感じた一日でしたが、明日は我が身と余生を考える必要があるなとつくづく思いました。

■私の記憶では、福島盆地はちょうど最初の暑さがやってくる頃、真夏ではなく、ちょうど今ごろに全国の最高気温やそれに近い暑さになることが多いですね。私はこの3月末にコロナ感染しましたが、基礎疾患もないためか、重症化せずにインフルエンザの強いもの程度の症状で済みました。5類に移行して警戒が緩んだこれからが心配ですね。

■いろいろな意見の掲載、とても大切な視点です。それこそが民主主義です。

■今後も私の地区、青森で頑張ります。



